



ともに松本市の松本秀峰中等教育学校と相沢病院は20日、生徒の病院見学の受け入れに関する契約の調印式を同病院で開いた。医学に興味を持つ同校生徒が、病院の医療スタッフの講義を聞いたり院内を見学したりする。同校は生徒が進路を考える参考にし、同病院は将来の医療の担い手が増えることを期待する。

病院見学は部活動「医学生物部」の生徒を中心に、医学に興味がある約20人が対象。月、水、金曜の放課後にある部活動の時間を利用して、救命救急センターや手術室を見学する他、年数回は医療スタッフの体験談や先端医療の取り組みなどの講義を聞く。医療

契約書を手にする相沢理事長(左から3人目)と小宮山校長(同4人目)ら

## 医学への道標 生徒の目の前に

松本秀峰・相沢病院 見学受け入れ契約

スタッフの教育・研修に使うシミュレーション器具の体験も考えている。契約期間は1年で更新できる。

同校の小宮山淳校長によると、医学生物部では細菌など医学の基礎について書物や実験で学んでいるが、実際の医療現場と結び付かないことが課題だった。そこで同校から近く、小宮山校長と関わりのある医療関係者もいる相沢病院に見学受け入れを要請し、同病院が応じた。

小宮山校長は「生徒には医療スタッフの使命感に燃える姿を感じ取り、進路を考える参考にしてほしい」。同病院を運営する社会医療法人財団慈泉会の相沢孝夫理事長は「若い人たちが将来、医療を担おうという気持ちになってくれればうれしい」とした。